

## コメント 高明潔（愛知大学）

皆さん、こんにちは。ただいま紹介いただきました高明潔と申します。よろしくお願いします。

今回、山下先生、張海洋先生、方李莉先生の報告に対するコメントを引き受けましたが、コメントをするよりは、感想しか述べられない立場かと思えます。

まず、方李莉先生のご報告についてです。ご本人がすでにおられません、方先生のご報告は、ご自身を中心とした研究チームによって、2000年から2007年の7年間に渡って行った2つのプロジェクトの内容と成果に関する総括であると思えます。2つのプロジェクトのうち1つは、西部における人文資源環境の基礎データベースに関する研究です。もう1つは、政府における人文資源の保護と開発事業の現状です。

報告のなかでは“人文資源”、“非物質文化遺産（無形文化財）”、“文化資源”、または“西部民間文化”、“西部人文資源”などの定義や用語を大量に用いて、またそれぞれに解釈して頂きましたが、私としては、報告のテーマと直接的に関係しているのは、おそらく予稿集の149ページから150ページにある「西部人文資源」という用語であろうと思えます。

全体として、方先生のご報告に関しては、若干、抽象的な印象を受けました。私のような、ある特定の問題意識から、ある特定の地域において長期のフィールドワークという方法で研究をおこなってきた人間としては、方先生の総括的な報告に対してコメントをするにはやや難しいところがあると思えますが、あえてここで、方先生に教えていただきたいことが2点あります（周先生、宜しいでしょうか）。

まず1点目です。この2つのプロジェクトは7年間に渡っておこなわれてきたわけですが、方先生ご自身の調査期間中に、例えば、彼女たちのチームは調査側になりますが、調査側の持つ非物質文化遺産の保護と利用に関する意識と、調査地域の住民たちの“非物質文化遺産”に対する理解度、

およびその保護と利用に関する認識は、果たして同じ次元のものなのか、地元住民は調査をどう見ていたか、これについて方先生のご考えをぜひお聞きしたいと思います。

もう一つですが、方先生の報告のなかには、“農業文明”“工業文明”という言葉がよく使われており、また“農民文化”についても解説していただきました。それに関連して、方先生ご自身が社会ダーウィン主義、あるいは社会進化論に関してどのようなご理解をお持ちなのか、とりわけ、農業文明は果たして工業文明に対して劣ったものであるかについて、是非とも方先生からのご説明を頂きたい次第です。

そして、方先生を中心としたチームで行われていた西部非物質文化遺産の開発と保護のプロジェクトは、和諧社会を建設するにあたって、その意義がどこにあるのかを教えていただきたいと思えます。

次は、張先生のご報告についてです。張先生の心を込めた、あるいは感情を込めた報告を通して、おそらく皆さんも張先生特有のパッションを充分に楽しまれたかと思えます。正直に言いますと、張先生の大胆な報告には少しびっくりした部分があるものの、張先生の報告を通して、中国における和諧の一面とそうでない面という2つの側面も伺えました。

張先生にお聞きしたいのですが、今日のような報告内容を、中国国内でも報告されたことはありますか。もしそうであれば、つまり張先生が今日のような報告ができたならば、中国は和諧社会に向かっていると証明できるわけです。それと同時に、少数民族を中心とした和諧が取れていない部分についても、張先生のご報告を通してよく伺うことができました。私は張先生ご自身の問題意識や考え方にまったく賛成です。

中国は和諧社会に向かっているといたのですが、もし張先生が改革開放前に、今日のような発言をおこなったなら、間違いなく張先生は“民

族分裂主義者”、あるいは“民族主義者”と見なされ批判された可能性が高いでしょう。張先生は、最初のご報告のなかで自分の出身は漢民族であるとわざわざ説明しましたが、かつては、少数民族の立場に立ち、その権益を求めると自ら意見を率直に表現した漢民族出身の学者が、“民族主義者”や“民族主義分子”などと批判されたことは少なくなかったわけです。

ですから、現在、中国では張先生のような発言が許されるようになったのは、中国の、言論自由があつて初めて和諧社会が確立できるという方向に向かっていることを示せます。むしろ、張先生のような方は正義感のある思想家だと全社会に認められています。

それと同時に、今日も依然として、少数民族出身の学者が張先生と同様の内容の発言をしたなら、間違いなく祖国を分裂させる民族主義者であるとみなされ、批判される可能性が高いです。私は1982年から民族研究を始め、また自分自身もマイノリティという境遇にいるからよく分かります。正直なところ、私は今日の張先生のように勇氣ある発言をすることはできません。このことから、中国が和諧社会に向かいながら、和諧を確保しえない部分がおあるということの説明できるのではないのでしょうか。

中国が本格的な和諧社会を建設するために、数多くの課題が立ちだかっています。少なくとも、和諧社会に向かっているプロセスのなかで、少数民族をどう語るか、即ち、相対化された少数民族はただ単純なマイノリティなのであろうか、という重大な課題について語る際、学术界ですら和諧的な環境を備えたとはいえません。

また、張先生にどうしてもお伺いしたいことですが、中国における民族教育について、具体的に言うと、漢民族や中国歴史をメインストリームとなっている民族教育の功罪についてどのようなお考えを持っているのでしょうか。それに関連して、私はつねに中国の戦争教育も失敗だと思います。即ち、結果的に憎む教育になってしまったにほかならないからです。民族教育も戦争教育と同様で、さまざまな問題を引き起こすほかないです。

次は山下先生の報告についてです。日本の文化人類学における先進的な研究をおこなっている

山下先生のご報告に対するコメントを引き受けましたが、勉強する立場で感想のみを述べさせていただきます。先ほど、山下先生が自分は中国研究の門外漢だとおっしゃいましたが、今回、山下先生をシンポジウムに招く私の考えについて、まず述べておきたいと思います。

1つ目は、愛知大学 ICCS の精神に基づいたものです。ICCS は、中国研究をおこなうにあたって、日本における中国研究および中国側の中国研究者たちの自国研究が、どちらかの一方通行、あるいは独占的な形で行う現状を打ち破るために、もっとも重視しているのは、中国の研究者と日本側の中国研究者との間の対等的な対話の実現です。この精神をうたった加々美先生には敬意を払います。並びに勇氣とチャレンジ精神を持って、この精神を受け継いでいる高橋先生を始めとする運営委員会の先生方にも敬意を払います。

ただ、中国研究を持続可能な分野に発展するためには、単なる中国側の研究者と日本側の中国研究者だけの対等な対話の実現だけではなく、日本における特定の専門分野の代表的な方の視野を取り込むことも極めて重要だと思います。例えば、山下先生のような観光人類学における代表的な方の声にも耳に傾ける必要があると思います。これは ICCS の精神をより発展するためには不可欠なプロセスです。このことが、今回、山下先生をお招きした最も重要な理由です。

もう1つの理由は、先生ご自身は中国研究者ではないとおっしゃいましたが、先生の熱意と厳しいご指導の下、東京大学で博士号を取得して中国の学界で大活躍している中国研究者がいます。現在、中国の広州にある中山大学人類学部に勤めており、ICCS の客員教授として、博士課程の学生に指導してくださった王建新先生も先生の弟子です。その意味では、山下先生は、観光開発の視点による中国研究という分野においても貢献をされていると言えます。

先生のご報告についてですが、ご報告は現地調査で得た印象や資料に基づいた内容でした。とてもわかりやすく説明していただきました。特に印象的なところが2点あります。1点目は、世界遺産を開発するにあたって、誰が本当に関与者であるかということです。中国で行われてきた“開発”

は、市民参加型の開発ではなく、すべては政府開発型によるものです。それらは当然、開発をめぐる力関係の帰結といえます。例えば、開発の主導権と関連する受益者は誰なのかというような問題が出てきます。

2点目は、世界遺産を文化遺産や文化資源として考えられていますが、私としては、麗江は世界遺産というよりは、せいぜい観光スポットの1つにすぎない存在になっていると思います。観光スポットとして、麗江古城は一つの建築空間として

そのまま生き残っていますが、麗江古城をつくり出していた地元の住民たちは、“観光開発”によって既に麗江から出て行ってしまいました。世界遺産の精神を語り、受け継ぐ担い手は誰なのか、開発によって麗江までやってきた外部者は、その精神や本質をどこまで伝えられるか、という問題について、先生のご意見、お考えをぜひお聞きしたいです。また、もしよろしければ、麗江の観光開発とバリの観光開発を比較したご意見もお聞きしたいと思います。以上です。

---

## ディスカッション

---

○座長 谢谢高明洁教授的点评，在座的五位教授每人有二点五分钟的时间，对两位教授的评论和提问有一个简短的回应，先从王处辉教授开始。

○王处辉 感谢马场先生和高明洁先生的点评，非常受启发。我就马场先生的两个问题做简要回答。

第一个，我们怎么看中国的上中下层，我相信在座的各位都是关心中国、研究中国的，一定要到中国社会当中去看中国，研究中国，不能只看报纸，也不能只看中央文件，那些只是一部份，要考察真实社会。真实社会才是真的中国社会。中国的上中下层确实是不一样的，这方面我做了若干调查。基层民众和官僚的私下生活是传统的。在知识分子当中，青年知识分子当中，他们的话语，他们的价值系统是自由主义的。在官方的正式会议和文件中都是马克思主义、邓小平理论，“三个代表”，科学发展观，但是在会下吃饭时，他们就不讲这些了。现在提倡和谐社会是说，我们只有建构一个和谐社会，这个社会才能发展，是这样一个概念。真正的和谐社会是什么样，没有人能够描述，他可能永远不存在，是一种价值导向。中国发展必须构建和谐社会，在这个过程中我们做什么，用官方的话来说就是要通过马克思主义大众化，马克思主义中国化这样一个途径。但是马克思主义中国化的路径是很艰难的，到现在为止还没有找到合适的路径。邓小平曾经说过，中国必须改革开放，不改革中国就是死路一条。这是邓小平的原话。在思想领域、文化领域也一样，马克思主义必须大众化，到知识层去，做知识层的主导，作民众生活的价值主导，

否则马克思主义只飘在上面，文件当中，依然是死路一条。马克思主义必须与中国实践相结合，需要继续寻找，我没有结论，希望大家一块努力。

第二个是关于西方的排斥性是不是过于单纯的问题。大家知道新教被承认是经过流血的，但是佛教到中国来是没有经过流血就进来了，来就来了。西方是你有本钱与我对抗，或需要付出很大成本的时候，他才坐下来跟你谈判。中国不是，来就来了，明明有充分力量把对方打掉，也不打。如果中国和西方一样，在郑和下西洋时，中国就会成为世界上的第一个殖民者。但中国不作殖民者，没有这个想法，只是要求以我为主，大家共存。这是跟西方不同的。刚才讲西方传教士到中国来传教，传不下去，就是因为他要求中国人只能相信一神，不能信自己的祖先。中国人（如徐光启）说，不让中国人信祖先，中国人绝不信天主教。后来利玛窦妥协，同意中国人既信奉祖先，也信仰天主，中国人才接受天主教。但罗马教廷对利玛窦等人的作法是大加批评的。同样的情况在中国不会出现。你们可以看看乾隆的寝宫，是有很多佛经的。中国文化是并行不悖，只要承认核心价值，其他观念都允许存在。我们必须承认这一点，反对这一点的都不成功。

○座長 请张海洋教授发言。

○張海洋 高明洁老师她实际上提了两个问题一个探讨，我先简短回答两个问题，然后对一个探讨发表一下我自己的感想。

第一个问题，我刚才说的这些话在国内是不